



6月

『祐琴のめぐる季節の重ね切り絵』 祐琴/ブティック社/726.9 ㍲

吊るしびな、鯉のぼり、傘と紫陽花、金魚すくい、ハロウィン猫、サンタクロース、しめ飾り…。切り絵ならではの繊細さに彩りを重ね合わせた作品を、春夏秋冬をテーマに紹介する。見るだけでも楽しめますが、切るだけではなく重ねる楽しさも加わるので、梅雨時の手仕事として重宝しそうです。



Pick Up!

『2050 年の図書館を探る』

野口武悟[編著]/日外アソシエーツ/010.4 ㍲

2050 年、図書館の未来はどうなっているのだろう。現在、大学で図書館情報学の研究と教育に携わっている教員らが、2050 年の図書館を見据えて、各々の専門の見地から現状と課題、提言等をまとめる。座談会も収録。

『没入読書』

渡邊康弘/サンマーク出版/019.1 ㍲

スマホの通知音などの刺激から脱し、本に集中する「没入読書」を紹介。集中力を自動的に高める方法、「47 秒間読書」や「10 分間指速読」などを公開する。折り込みの「レゾナンスマップ」付き。

『やらない時間術』

安田修/かや書房/159 ㍲

いつも仕事に追いまくられて時間が無い、意味のあることにもっと時間を使いたい…。そんな悩みを持つ人に向けて、自由に使える時間が大量に生まれる「詰め込む」「集中する」「やらない」3 つの時間術を紹介する。

『近江の古代寺院と造営氏族』

小笠原好彦/サライズ出版/216.1 ㍲ 大津2階

大津宮などの宮都が営まれた近江。飛鳥・白鳳期の寺院跡を遺構・瓦類などの発掘成果と「日本書紀」などの文献から検証し、在来・渡来系の有力氏族が営んだ実像に迫る。「古代近江の三都」の姉妹編。

『70 歳のバックパッカー』

下川裕治/産業編集センター/290.9 ㍲

27 歳で新聞社を辞め、40 年以上続けてきたバックパッカーの旅。僕はなにを得て、なにを失ったのか。旅とともに生きてきた旅行作家が、はじめて自らの半生を振り返った自伝的エッセイ集。

『静かな退職という働き方』

海老原嗣生/PHP 研究所/366 ㍲

仕事は最低限だけでプライベート重視の「静かな退職」は、非難されるべき働き方なのか、それともビジネスパーソンの「忙しい毎日」を変える福音となるのか。日本に広がっている新しい働き方を「雇用のカリスマ」が解き明かす。

『「新しい生徒会」の教科書』

高橋亮平/旬報社/375.1 ㍲ 青少年

誰もが目にしていながら、その実態や活動内容はほとんど知られていない生徒会について、本質的に求められているもの、変容する社会の中で新たに求められるあり方とその可能性、国内の優良事例、世界の先進的な取り組みを紹介。

『じつは身近なホタルのはなし』

遊磨正秀/緑書房/486.6 ㍲

誰もが知っている「ホタル」について、人がつくり出した場に生活する「人里昆虫」としてのホタル、人の心に残る「文化昆虫」としてのホタルなど、さまざまな視点からわかりやすく解説。奥深いホタルの魅力を紹介する。

『とことんツバメ、アマツバメ』

佐藤信敏[写真]/文一総合出版/488.9 ㍲

昔から五穀豊穡や商売繁盛の象徴として大切にされてきたが、子育て以外の詳しい生態は世間一般では知られていないツバメ。空中生活に特化したツバメ類・アマツバメ類をとことん紹介する。

『江戸・東京水道全史』

鈴木浩三/筑摩書房/518.1 ㍲

徳川家康の江戸入りから現代まで、最も基本的なインフラとして江戸・東京を支え続けてきた水道。江戸・東京の経営史を専門とし、東京都水道局に長年勤務してきた著者が、水道の 435 年にわたる歴史をわかりやすくひもとく。

『手づくり帯』

小倉ゆき子[監修]/世界文化社/593.1 ㍲

蝶結びやふくら雀のように結ばれ、胴と別になっている二部式帯を手づくりしてみませんか。刺しゅう、アップリケ、リボンコラージュ、きりばめ、墨描きでつくる二部式帯を紹介する。

『ゼロからはじめる稼ぐ農業』

高津佐和宏/あさ出版/611.7 ㍲

農業経営の基本、お金の知識、農地の見つけ方・選び方、作るべき品目、農作物はどこに売ればよいか、農業で成功するための心構え…。新規就農者が農業で稼ぐためのノウハウを 100 項目でたっぷり解説する。

『アジサイの育て方』

川原田邦彦/家の光協会/627.7 ㍲

アジサイは、きれいに咲かせるためのポイントをおさえれば、毎年美しい花を咲かせることができる。基本の育て方をカレンダーで紹介。育てたい品種が見つかるアジサイ図鑑、アジサイをもっと楽しむ方法も収録。

『墨のいろ』

濱田信義[編著]/パインターナショナル/721.3 ㍲

東洋独自の絵画芸術・水墨画。受容期の鎌倉・南北朝時代をはじめに、雪舟らが活躍する大成期の室町時代、日本化されて個性的な作品が生まれた桃山・江戸時代に至る作品を掲載し、約 500 年にわたる水墨画の歴史を紹介。

『茶の湯菓子のきほん』

鈴木宗博/淡交社/791.7 ㍲

食べるのはもちろんのこと、眺めているだけでも季節感や楽しさを与えてくれる茶の湯菓子。茶事・茶会等で役立つよう、茶の湯菓子の盛り付け方、器の選び方など、写真でわかりやすく解説。『淡交テキスト』連載等を加筆修正。

『ことばは変わるよどこまでも』

飯間浩明/毎日新聞出版/810.4 ㍲ 青少年

「かわちい」の「ちい」って何？ 地面は「じめん」「ぢめん」どっち？ 「ひざ」はどこからどこまで？ 辞典の編さん者が、身近にあって気になることばの面白さを綴る。『毎日小学生新聞』連載書籍化、第 3 弾。

『「分かりやすい文章」の技術』

藤沢晃治/講談社/816 ㍲

「目的を達成する文章」を書くためには。「かたまり」を明示する」「比喻を使う」「キーワードを作る」など、読みたくなる、納得する、賛同したくなる、そんな文章を書くために必要な 18 のテクニックを伝授する。

『文学館を旅する』

今村信隆[監修]/イカロス出版/910.6 ㍲

作家の生涯や作品の背景、展示資料のひとつひとつを眺めるうちに、いつしか魅惑の作品世界へ…。出身作家や作品の舞台となった場所に建てられている、全国各地の文学館の見どころと情報を紹介。データ:2025 年 2 月現在。

『悩める大人に贈る万葉集』

三宅香帆/亜紀書房/911.12 ㍲

1300 年前、言葉の達人たちが自由な発想とひらめきを詰め込んだ“感情のタイムカプセル”和歌。「万葉集」のなかから現代人にも共感できるような歌を選び、コミカルでポップな現代語訳を添えてたのしく解説する。

『味と人情』

細谷正充[編]/中央公論新社/913.68 ㍲ 文庫

忘れられない握り飯の味。貧しさのなかの美味と人情…。生きる力が湧いてくる、味わい豊かな時代小説。池波正太郎から田牧大和まで、名手が紡ぐ傑作短篇のフルコース、全 8 作品を収録。

『佐野洋子全童話』

佐野洋子/理論社/913.8 ㍲

佐野洋子の作品の中から、子どもから読める創作童話を選び網羅的に収録。「金色の赤ちゃん」「やせた子豚の一日」「100 万回生きたねこ」など、長篇・中篇・掌篇、絵本のテキストを掲載する。

『ジジイの昭和絵日記』

沢野ひとし/文藝春秋/914.6 ㍲

昭和 19 年生まれの著者は、人生のほぼすべてを戦後と共に生きてきた。それはまるで、奇跡のように平和な時代。いつの時代も人は懸命に生きてきた。共に生き、暮らし、そして風になっていった人々に送る 31 篇の人間賛歌。

『鎖された声』

エミコ・ジーン/早川書房/933 ㍲

2 年前に姿を消した少女エリーがシャツに血の染みをつけた状態で発見された。捜査を進めていくうちに、エリーが誘拐されたこと、彼女の着ているシャツが死体となり見つかった別の少女の持ち物だと判明して…。

『田沼と蔦重』

早見俊/新潮社/F ㍲ 文庫

「老中」田沼意次、「江戸のメディア王」蔦屋重三郎、「日本のダ・ヴィンチ」平賀源内。江戸を揺るがす 3 人の企みとは…。型破りで「べらぼう」な男たちの姿を生き生きと描いた書下ろし長編歴史小説。

『それいけ!平安部』

宮島未奈/小学館/F ㍲

県立菅原高校の入学式当日、安以加から「平安時代に興味ない?」と声をかけられた栞。「平安部を作りたい」という安以加の熱意に入部を決めるが、新部の創設には部員が 5 人必要で…。『STORY BOX』掲載を加筆・修正。

図書館のホームページで蔵書検索や本の予約ができます。

また、登録された方にはメールで新着本をお知らせする「新着案内メール」を配信しています。

※メールアドレスを変更された場合はご自身でホームページより変更手続きをお願いします。



スマホ用ホームページ